

興味ないものから学んだこと

兵庫県立御影高等学校二年（兵庫県）

宮川 みさと

堅苦しく、興味があまり湧かないもの。それが茶道への正直な感想でした。私は今、御影高校で茶道部の一員として部活に励んでいます。しかし、高校一年生の四月の私は茶道部に入る気は全くありませんでした。これまで中学では、まずまず茶道部という部活は無く、本格的に点てられた抹茶を飲む機会もありませんでした。そんな中御影高校に入学し、部活動説明会で私は初めて茶道に触れました。しかしながら、その時の私は茶道部に少しも興味が無く、話半分で部活の紹介を聞いており、説明会が終わった頃にはなんとなく堅苦しそうなものだな、と感じたことを覚えている程度でした。そんな茶道への印象が変わったのは、部活体験のときでした。文化部を回っており、その流れでなんとなく体験した茶道部には衝撃を受けました。初めての時間は、優しく出迎えてくださった先輩方と和やかな雰囲気の中で部活の時間を過ごしていました。しかし、お茶を点

てはじめると先輩方の空気は一変しました。和やかなものから凜とした空気へと変わり、無駄のない所作でとても上品にお茶を点てる先輩方を見て、私は茶道というものの奥深さを感じました。そして茶道をよく知りたいと思い、入部を決意しました。

茶道は知れば知るほど深く、とても面白いです。私は総合文化祭で、より茶道の面白さを感じました。運動部などの競う競技とは異なり、茶道ではよりお互いに気持ち良いお点前をするということを、目標にしていることがとても新鮮でした。そして、今まで個人のものだと思っていた茶道が実は、お点前だけでなく、水屋や準備、後片付けなど集団で成り立っていたことが、より茶道の奥深さを感じさせました。私たちは何度も何度も文化祭に向けて、お稽古を重ねました。お稽古をしていく中、ご指導していただいた先生が続けられる状況でなくなってしまうたり、新しい部員が増えたりなど、さまざまなきっかけがありました。でも、どんな状況になっても茶道のお稽古を続けました。そして本番では何とか形を整え、やり切ることができました。息を合わせ、仲間と協力し、相手に対して思いやりの心を持つ。そんな茶道の楽しさを感じることができ、総合文化祭への参加を諦めずに頑張り続けて良かったなと思えました。

今、私は茶道も茶道部もとても大好きです。所作の一つ

一つが上品かつ美しいのはもちろん、相手をどんなときでも楽しませようとすゝる茶道に、昔の私を感じた堅苦しさはもう感じません。そして、様々な苦勞を共に乗り越え、どんな時でも私を見放すことなく、優しく教えてくれたり、仲間として心の一つにしてくれたりした茶道部は、私の心の大切な抛り所です。茶道はとても奥深く、私にはとても学びきれないものですが、精一杯これからも学び、励んでいきたいです。